

水コン協 協会設立40周年迎える

<“挑戦”から“実践”へ新ビジョン>

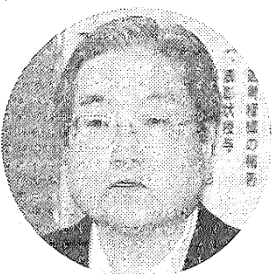
“挑戦”から“実践”へ新ビジョン

水コン協

協会設立40周年迎える



間山会長



中西新会長

全国上下水道コンサルタント協会は12日、都内で第44回定時社員総会と協会設立40周年記念式典を開催した。総会では、間山一典・日水コン相談役に代わり、中西新一・日水コン社長が新会長に就任した。式典で発表した協会の新ビジョン「A WSCJビジョン2025-2035」では、地域社会の持続を支える水インフラマネジメントの

実践をコンセプトに、これまでの「上下水道マネジメントの挑戦」から実践へとステージを上げ、水インフラマネジメントに主体的に関わっていく新たな決意を表明した。また、石井晴夫・東洋大学名誉教授が、「水コンサルタントに期待する今後の水インフラマネジメント」と題し記念講演した。

総会では、昨年度の計算書類の承認と役員を選任について諮り、いずれも了承した。新役員には、中西新会長のほか、北海道支部長に今日出人・ドーコン社長、東北支部長に田倉治尚・三共技術副社長を選任した。また、昨年度事業と決算、今年度事業計画と収支予算について報告があった。

開会にあたり、間山会長は「能登半島地震の支援活動では、現在までに2万人の会員に支援をいただいている。改めて感謝を申し上げたい。一方、我々にとって生命線である人材獲得は、競争が厳しさを増している。水コンサルタントという職業を知ってもらうことが重要と考え、協会では広報戦略を策定した。SNSのフォロワー数は2万4000を超えたと聞いている。次の時代、次のステージに進むため、後ほどお披露目させていただきたい。最後に、当協会は40周年を迎えることができた。ここまで築いていただいた先人の方々に改めて感謝と敬意を表したい」とあいさつした。

昨年度の会員各社の上下水道部門の受注総額は、対前年度比で約4・2%の増加を見込んでいる。事業活動では、水コン協ビジョン（2015-25）の第三期中期行動計画の最終年度として、人材確保支援や技術・倫理向上支援、多様な官民協働の促進、協会活動の強化の各基本方針に基づき、行動項目に取り組んだ。

本部・支部意見交換会を7支部で実施し、次期ビジョンやウォーターP P P、人材確保のための広報戦略などを議論した。人材確保・育成支援では、会員を対象に「魅力ある職場づくり推進セミナー」を開催。新たに策定した広報戦略により、動画やSNS、パンフレットなどの広報ツールを活用し、水コンサルタントの役割などの情報を、一般の人や若い世代に発信した。

中西新会長は、「九州下水道展では、「水コン協力フェ」やウォーターP P Pをテーマに講演会とパネルディスカッションを開催した。今年度事業では、主に40周年記念事業や広報戦略の推進、ウォーターP P P導入を通じたビジネスの拡大、下水道展25大阪への出展などを予定している。

支部の幹事を務めた時には熊本地震の災害支援活動に関わらせていただいた。昨年の能登半島地震、今年の八潮市での道路陥没事故など、自然災害や施設の老朽化対策に対し水コンサルタントが果たすべき役割は一層大きくなっている。上下水道の専門技術者集団として、知識経験を活かして地域社会の持続に貢献することが期待されている。一方で、人口減少に伴う担い手不足が深刻な問題となっている。多くの課題に対し、皆様と力を合わせて技術力の向上と協会の発展に努めたい」と抱負を述べた。

議事後には、協会への貢献や有効な論文、能登半島地震での支援活動に対する協会表彰が行われた。